飯田市 歴研ニュース
News Letter No.112
The Iida City Institute of Historical Research
2021年6月1日 発行

飯田市歴史研究所
〒395-0803
長野県飯田市鼎下山538
TEL 0265-53-4670
FAX 0265-21-1173
E-mail iihr@city.iida.nagano.jp

第18回飯田市地域史研究集会

「暮らしのなかの景観ーその歴史と継承」

2021年 9月11日(土)・12日(日) 開催

11日(土) 第1部「景観の歴史と文化 ―国際比較の視点から」
12日(日) 第2部「魅力ある景観をのこす・つたえる」

会 場
飯田市役所 C棟3階会議室

講演・コメント
陣内秀信さん（法政大学）
大田省一さん（京都工藝繊維大学）
吉田ゆり子さん（東京外国語大学）

事前学習会
「都市史の方法と実践に学ぶ」
7月24日(土) 陣内秀信さんの著作を読む
7月31日(土) 大田省一さんの著作を読む
会場：鼎公民館 14:00-16:00
事前申し込み制（定員10名）[担当：福村]

第18回地域史研究集会では、「暮らしのなかの景観―その歴史と継承」と題し、日々の生活の舞台である景観を、歴史的な視点から学び、考える機会とします。

ここでいう「景観」とは、必ずしも鑑賞の対象となる「美しい風景」ではなく、わたしたちの日常生活を歴史的に成り立たせてきた、文化的生活の基盤としての「日常の景観 everyday landscape」を意味します。

なぜ、いま「日常の景観」を問う必要があるのでしょうか？まず第一に、ここ数十年のあいだに古い民家や土蔵の解体が進み、歴史ある日常の景観が失われつつあることに対する危機感が念頭にあります。しかし、その一方で、古い建物を再生・活用し、地域の魅力の向上に取り組もうとする事例も近年増加しています。こうした現状からは、古い建築や町並みが、ひと昔前とは異なる価値観で評価されるようになってきたことが感じられます。「日常の景観」へのまなざしは、今まさに転換しつつあるのかもしれません。

下久堅九如亭（明治初期の本棟造の古民家）

このような近年の価値観の転換はローカルな現象にとどまりません。むしろグローバルな視点から考えることが重要と思われます。たとえば、ユネスコ世界遺産における文化遺産の概念は、古代遺跡のような単独のモニュメントだけでなく、ひとびとが暮らす歴史的まちなみや文化的景観へと拡張されてきました。世界のなかで文化遺産の見方や考え方が次第に豊かになってきたことは確かといえます。その一方で、個々の地域で、いま現在も日常をかたちづくっているローカルな歴史遺産（＝地域遺産）の継承は、必ずしもうまく進んでいないのではないでしょうか。これらの矛盾を紐解くうえで、いま「日常の景観」から問い直すことが重要と考えます。

今回の研究集会では、国際的視野から建築と都市の歴史を研究されてきた陣内秀信氏と大田省一氏をお招きし、ひろく「日常の景観」の歴史と継承の問題を考えます。事前の学習会として、ご講演いただくお二人の著作を読む勉強会を7月24日と7月31日の二回に分けて開催しますので、あわせてご参加いただけると幸いです。

（研究員　福村任生）

飯田市歴史研究所2021年度研究計画

1．共同研究：複数の諸研究員によって研究組織を構成し、遂行するもの
- 基盤調査：飯田市歴史研究所の日常的・永続的な調査・研究事業
- 課題研究：数年間をかけて特定のテーマに取り組む研究
- 単位地域研究：市域の自治区域(旧町村)を対象に取り組む総合的な調査・研究

基盤調査	A	史料所在状況調査	羽田 真也
	B	史料現状記録調査	羽田 真也
	C	オーラルヒストリー調査	田中 雅孝
	D	歴史的建造物調査	福村 任生
	E	歴史的公文書調査	太田 仙一
	F	在外史料調査	吉田 伸之

単位地域研究	A	飯田・上飯田	多和田 雅保
	B	座光寺	羽田 真也 田中 雅孝
	C	川路	福村 任生 田中 雅孝
	D	伊賀良	福村 任生
	E	鼎	太田 仙一

課題研究	A	小学校区を単位とする地域社会の文化構築に関する歴史的研究	多和田 真理子
	B	山里の分節的把握―阿智村清内路を素材として	吉田 伸之
	C	南信濃山里社会の文化的景観とその歴史的形成過程に関する基盤的研究	吉田 ゆり子

2．基礎研究：それぞれの研究員が個人で遂行するもの

所長	吉田 伸之	「小規模伝統都市・飯田の社会=空間構造」4
顧問研究員	池 亨	飯田・下伊那の中世
	大串 潤児	「村と戦争」の総合的研究
	加藤 陽子	森本州平日記を読む
	田嶋 一	飯田・下伊那の教育・人間形成についての教育社会史的研究
	多和田 雅保	近世・近代の飯田町を中心とするネットワークの研究
	吉田 ゆり子	下伊那地域における身分的周縁に関する研究
研究員	羽田 真也	近世信州伊那地域における村社会の構造 ―座光寺村を中心として―
	太田 仙一	近現代長野県下伊那地域を対象とする経済・経営史的分析
	福村 任生	明治大正期の地籍史料群を用いた歴史的景観の研究
特任研究員	田中 雅孝	養蚕地帯の地域社会構造と主体形成
	竹村 雄次	明治大正期の下伊那の文化・思想の変遷

調査研究員	齊藤 俊江	下伊那地域の満州移民研究
		飯田遊廓の娼妓に関する研究
	竹ノ内 雅人	飯田下伊那地域の寺社と地域社会に関する基礎的研究
	多和田 真理子	小学校の設置運営と地域の関わり ―日誌類の分析を中心に―
	千葉 拓真	近世の飯田・下伊那における領主間ネットワークと地域社会の総合的研究
	原 英章	満蒙開拓青少年義勇軍の送出についての史的研究 ―学校教育や役場等現場の関わりを中心に―
		戦争末期における飯田下伊那の動き ―川路への豊川海軍工廠の疎開、農兵隊等―
		飯田市平和祈念館資料室 所蔵資料の歴史的調査
	樋口 貴彦	山村の木材利用の手法に関する研究
	前澤 健	榑木役に関わる諸問題
	本島 和人	満洲開拓第二期五ヶ年計画と「中心人物」
		青少年義勇軍送出と郡市教育会の戦時期と戦後
		満洲移民参加者の個人日記の翻刻と解説
	安岡 健一	龍江支所文書にみる引揚と戦後開拓

市民研究員	粟谷 真寿美	農業青年、楯操の歩み　―自由大学から、江渡狄嶺、ヤマギシズムへ―
	上河内 陽子	川路地区ほか地域に残された軍事郵便等から戦時下の地域をよみとく
	坂本 広徳	近世清内路の社会構造
	清水 迪夫	歌誌『夕樺』と下伊那青年運動　―『夕樺』の戦後史―
	林 武史	飯田の街角の文字デザインと歴史を見つめる
	壬生 雅穂	ミチューリン運動の諸問題の研究　―菊池謙一を中心に―

歴研のお仕事　現状記録調査

飯田・下伊那の各地区や諸団体あるいは個人のお宅などには、たくさんの古文書（史料）が残されています。これらは、この地域にかつて生きた人びとの生活や文化を物語る貴重な歴史遺産であり、また私たちの暮らしや地域の未来を創造するうえで欠かせない財産です。そのため歴史研究所では、史料調査に継続的に取り組み、どのような史料が、どのようにして継承されてきたのかを明らかにし、その活用と保存を進めています。

歴史研究所の史料調査は、現状記録という方法に基づいて行われています。これは史料の今ある状態（現状・現秩序）を、そのまま記録しようとするものです。たとえば、あるお宅の蔵に多数の史料が保管されていたとします。通常、これらはタンスや木箱・段ボール箱などに入れられていることが多いのですが、それを蔵から出す前に、蔵のどこに、どのような状態で置かれているのかを、スケッチや写真によって記録していきます。また、タンスや箱などから史料を取り出す際にも、史料がどのような順番や状態で入っているのかをビデオなどで詳細に記録します。そのうえで、史料１点ごとの内容・作成年月日・作成者・史料の形態などを記した目録を作成していきます。こうして史料の現状が克明に記録されることになるのです。

このように、史料１点ずつの目録だけでなく、それらの残り方までを記録する現状記録という方法を私たちが大切にするのは、史料の残り方にも歴史があると考えているためです。私たちが身の回りの整理を行う時と同じように、どの史料をどこで、どのように残し保存するのかというところには、史料を作成・継承してきた先人たちの考えや思いが反映されています。それも大事な歴史の一コマなのです。

参考文献：吉田伸之『地域史の方法と実践』校倉書房、2015年

（研究員　羽田真也）

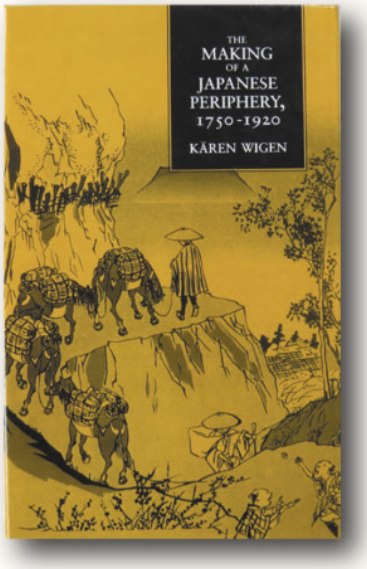
歴史研究所での現状記録調査の様子

地域史ゼミの紹介とゼミ生募集

毎月第2金曜日の午後6時半から2時間程度、地域史ゼミを開催しています。このゼミでは、アメリカの歴史地理学者カレン・ウィーゲンさんが下伊那の近世・近代を分析したThe Making of a Japanese Periphery 1750—1920（University Of California Press、1995）（「日本における「周縁」の形成：1750年から1920年まで」）という英語文献の輪読に取り組んでいます。

現在は、下伊那の近世を取り扱う第1部に入りました。これからのメインテーマは、近世に主に伊那街道で盛んにおこなわれた中馬（ちゅうま）（馬による荷物輸送のこと）です。アメリカの研究者の視点から、この地域の社会を理解する上で重要な中馬がいかに分析されるか、楽しみにしています。

ゼミは、担当研究員が作成した和訳案をもとに、参加者全員で英文の内容を理解していくものとなっております。新年度ですので、ご興味をお持ちの方はぜひこの機会にご参加ください。英語や歴史に自信のない方も大歓迎です。



担当者：太田仙一（歴史研究所研究員）
開講日時：毎月第2金曜日18：30～20：30
会場：歴史研究所研修室

飯田アカデミア2021第94講座

流行病と江戸時代の社会

講　師 海原（うみはら） 亮（りょう）さん
（住友史料館主席研究員）

6月19日（土）

第1講 13：30～15：00
江戸時代の医療環境

第2講 15：20～16：50
流行性感冒と庶民の医学

6月20日（日）

第3講 10：00～11：30
天然痘対策＝種痘の持つ社会的意義

第4講 13：00～14：30
世界史の事件としてのコレラ流行

会　場 飯田市役所 C棟3階会議室

資料代 500円　※高校生以下無料
※１講義のみでもご参加いただけます。

講師より

新型コロナウイルスの脅威が、いまだ収束の兆しをみせていません。感染症流行への対策は、あたかも国家＝権力に要請された基本的な役割と思われがちですが、実はそのような考え方は、近代以降の所産です。明治７年（1874）「医制」の制定以前、江戸時代の社会では、現代とは大きく異なる、独自の医療環境が成立していました。端的にいうと、幕府＝公儀は、医療に関する政策を、ほとんど何も設けることがありませんでした。そのような状況下で頻発した、感染症の流行に対して、人びとはどのような対応をとったのでしょうか。

今回の講座では、おもに江戸時代に発生した３つの大きな病、「流行性感冒」「天然痘」「コレラ」をとりあげ、被害や流行病対策の実態を物語る史料を眺めていきます。流行病の対策は、江戸時代を通じて次第に進化を遂げていきます。それと同時に、医療をめぐる社会のありようを変え、近代の医学を受容する素地を作りあげていきました。

☆飯田アカデミアは、歴史学における第一線の研究者に、最新の研究成果をわかりやすく紹介していただくものです。
今回は新型コロナウイルス感染拡大防止のためオンライン形式の講座(講師が遠隔地から講義）での開催とさせていただきます。
受講方法は、①会場での受講（定員40名、機材等はこちらで準備します。）②ご自宅等のパソコンから受講 の2通りになります。
いずれも、**6月11日（金）**までにお電話でお申込みください。その際に受講方法等についてご案内させていただきます。（0265-53-4670）※日曜日･月曜日･祝日は休所

歴研ゼミ＆ワークショップ6月・7月の予定

受講生募集!!

会 場：歴史研究所 研修室 ※満洲移民研究ゼミは鼎公民館にて開催します。

建築史ゼミ
担当：福村任生（研究員）
6月18日／7月16日
（第3金曜日）19:00～21:00

近世史ゼミ
担当：羽田真也（研究員）
6月9日･23日／7月14日･28日
（第2･第4水曜日）18:30～20:30

近現代史ゼミ
担当：田中雅孝（特任研究員）
6月12日･26日／7月10日･24日
（第2･第4土曜日）10:00～11:40

思想史ワークショップ
市民の皆さんが自主的に学び合う場
6月2日･16日／7月7日･21日
（第1･第3水曜日）19:00～21:00

満洲移民研究ゼミ
担当：本島和人（調査研究員）
齊藤俊江（調査研究員）
第115回 6月5日 ／第116回 7月3日
（第1土曜日）10:00～11:40

地域史ゼミ
担当：太田仙一（研究員）
6月11日／7月9日
（第2金曜日）18:30～20:30

定例研究会

時 間：14：00～16：00　　会 場：鼎公民館　3階講義室
※聴講ご希望の方は歴史研究所までお電話ください

『川路のあゆみ 近世から近代へ』書評会
開催日：**6月26日（土）**
報告者：**坂本広徳（市民研究員）**
竹村雄次（特任研究員）

『松下千尋日記』に読む農村青年の自己形成 その２
開催日：**7月17日（土）**
報告者：**田中雅孝（特任研究員）**

ゼミ・ワークショップの詳細・お申込みについては、歴史研究所までお問い合わせください。 TEL：0265 - 53 - 4670

各種講座、アカデミア、ゼミについては、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、発熱･咳などの症状のある方やマスクを着用されない方の受講はご遠慮ください。また、今後の感染状況により、延期または中止をする場合がありますのであらかじめご了承ください。

開所時間：午前9時～午後5時　休所日：日曜日・月曜日・祝日・12月29日～1月3日